

きずな学園



そのままに
きずなの理念
受け継がれ

—当たり前を深く味わう—

社会福祉法人
吾子の里
障害福祉サービス事業
生活介護 きずな学園
障害者支援施設
セカンドハウス きずな学園
生活介護デイセンター ゆう
日中サービス支援型共同生活援助
グループホーム こう
就労継続支援B型 きずな塾
相談支援センター あこ

〒892-0871
鹿児島市吉野町10793-1
TEL 099-244-3220
FAX 099-244-3227



ともに、歩く道 ②

「北の街ではもう悲しみを
暖炉でもやしはじめている
らしい」と歌い出し、「襟裳
の春は何もない春です。
寒い友だちが訪ねてきた
よ 遠慮はいらないから暖
まってゆきなよ」で歌いおさめる。ご存じ森進
一の名曲『襟裳岬』です。

「きずな」は何もない施設です。見学者がみえた
ら「お見せするようなものは何もないの、せめ
て園庭から見える桜島でも眺めて帰つて下さい」
と言っています。

毎年、臨床心理士養成大学院の院生が数名実習
に来ます。最初に必ずお茶を出します。飲み終わ
ったら「どうだった」と尋ねます。学生は何を尋
ねられたのか分からず、キヨトンとしています。
「きずな」でお茶を一杯入れるのにどれだけ細や
かな気遣いをしていることか。

濃いからず薄からず
熱からずぬるからず
多からず少からず

このお茶一杯をどのくらい深く味わえるか、そ
の感性を磨くのが「きずな」における実習なのだ、
と言つて聞かせます。マインドフル・ドリンクイン
グの実習です。

随分昔の話です。何かの福祉大会に利用者と一
緒に参加したことがありました。利用者は別メニ
ューでしたので、大会終了後迎えにいくと、係り
の女性職員の方が「通所の利用者の皆さんには小
綺麗ですね」と話されました。そんなこと思つて
もいませんでしたので驚きました。でもよくよく
考えてみると、人の目に少しでも小綺麗に見える

ために、親はどれほど豊かな愛情を注いでいること
か。
アメリカ大リーグの選手たちはガムを噛みグラン
ドに唾を吐きます。あれは見苦しい。ファンは選手
の一挙手一投足に注目していることを自覚して欲し
いものです。大谷選手は球場にゴミが落ちていたら
拾っています。あれは見ていて美しい。高校野球で
監督から厳しく躾られたのが習慣になつたのだそ
うです。

ゴミが落ちていたら拾うのは、日本では当たり前
のことです。でも、拾うためにはゴミが落ちているこ
とに気づかなければなりません。気づくためにはゴ
ミ一つ落ちていない清潔な環境であることが前提で
す。日頃からの気づき、気配りが大切なのです。『人生
は芸術である』。これはウルフの言葉です。人生は一
日一日の生活の積み重ねです。人は誰でもみな人生
という自分の芸術作品を日々創造しつづけてい
ます。たとえそれがどんなに平凡でつまらないもの
に見えたとしても、この世で唯一無二のものであり、
その価値はどんな偉大な芸術作品にも決して劣るも
のではありません。マスローは言っています。「一流
のステップは二流の絵画より創造的である」と。「きず
な」の生活についてもまったく同じことが言えます。
職員の一人ひとりの支援活動が一流の域に達す
れば、それはまさしく芸術活動です。それが「きずな」
全体の品格を日々創造しているのです。しかし、そ
のことは自分には気づけません。他人のまなざしの
中にしかないのです。それが怖いのです。祝迦の教
えもつまるところ「今日一日を美しく生きなさい」と
いうことです。ナッシンゲ・グレーート。これが「き
ずな」で生きる人生哲学です。

祝

成 人 式

チーフ支援員 松山 拓生

令和三年一月八日、粉雪が綺麗に舞う中、「きずな」の体育館において「きずな新成人を祝う会」が行われました。

今回は、男性の利用者様一名が成人を迎えるされました。利用者様とそのご家族様、職員と総勢百十名の方



成人おめでとうございます。



お母さんありがとうございます！

ご本人様は、児童の頃から「きずな」との縁がありました。高等部を卒業されたのち、「きずな学園」に入園され、現在は「セカンドハウスきずな野」に入所されていました。「きずな」には、日々の生活のなかでの活動はもちろんのこと、おでかけ（ドライブ）、お餅つき、グラウンドゴルフ大会、お花見、

皆さんと一緒に祝い弁当で会食をし、記念撮影や記念品贈呈と和やかな雰囲気の中、会は進んでいました。

理事長先生や園長先生をはじめ、たくさんの皆さんからの温かいお祝いのお言葉を頂きました。

人々が参加され、たくさんの拍手と笑顔に包まれてご入場されました。ご本人様は、真新しいスースを装い、はじめは少し緊張されていましたが、会場の皆さんたご様子でしたが、会場の皆さんのが温かい雰囲気の中で、徐々に笑顔も見られるなどリラックスされました。

笑顔に包まれてご入場されました。

ご本人様は、真新しいスースを装い、はじめは少し緊張されていましたが、会場の皆さんたご様子でしたが、会場の皆さんのが温かい雰囲気の中で、徐々に笑顔も見られるなどリラックスされました。



大人になります。
日を増すごとに、まだ慣れない雰囲気や環境のなか、少しづつですが、強くたく

運動会、キャンプ、クリスマス会などの季節ごとに行われる行事、さらには旅行といった様々なイベントがあります。

そのひとつひとつに参加され、経験されることにより、大きくなり成長なさつて来られました。



ましくなつていいくご本人様を、ご家族もお喜びになつておられることなのではな
いかと思つております。
今後も、元氣いいっぱい、笑顔いっぱい、日々の様々な活動や行事を通して、皆さんと一緒にたくさん楽しい思い出を作つて頂きた
いと願つております。



「大人というのは、云々かんぬん・・・」



セカンドハウスきずな野

サービス管理責任者 西郡 康平

開所 20年

マラソンの高橋尚子選手が、シドニーオリンピックで金メダルを取った二〇〇〇年、知的障害者入所更生施設「セカンドハウスきずな野」がオープンしました。

当時、今もですが地域移行が

呼ばれ、施設解体が主張されている中での船出でしたが、施設入所という選択は、今までにない場所にするのだという強い思いからでした。ご家族とのつながりを一番の重きに置き、それを中心として支援を行っていく、それが皆さんの気持ちの安定になつていてるという信念でした。

まさしく「セカンドハウス」

として、お友達との楽しい生活、

のんびりとした毎日をすごす中

なつてきました。

今後も一人ひとりの人生に寄り添い、何が皆様にとって最善かを考え支援をしてまいります。

とはい、まだまだ二十歳！
これからも伸び盛りの若い？
「セカンドハウスきずな野」に
変わらぬ
ご指導の
ほどよろ
しくお願
いします。

で、自分の場所は自宅だけではなく、ここにもあるという気持ちを持つて下さいました。ですが

二〇年が経ち、そろそろ「セカンドハウス」だけではない違う役割も最近では感じるようになつてきました。



お母様あつての「きずな野」です。



棟上げ



会長先生と竣工式



理事長先生



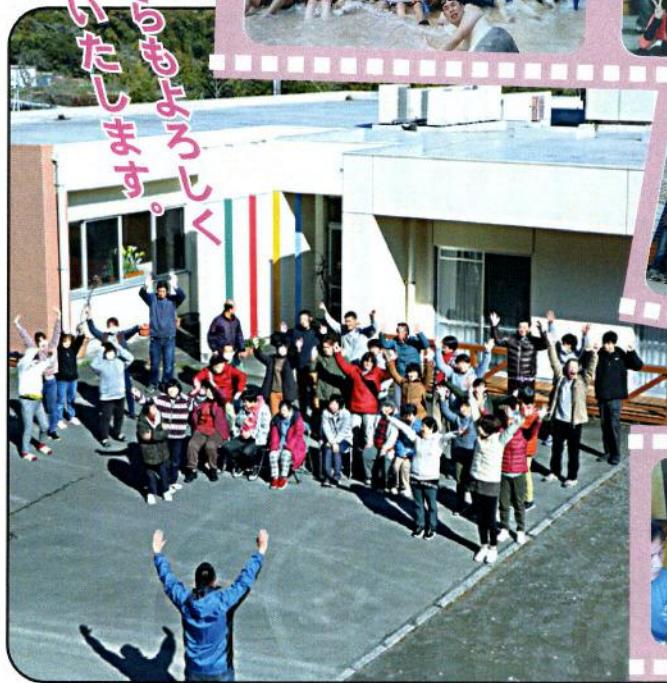
開所式 かんぱい！



作業場は草ボーボーでした



いろんなところに行きました！



これからもよろしく
お願いいたします。



園長先生と
いっしょに！





●初詣



●クリスマス会



●みかん狩り



●みかん
狩り



●芋掘り



●クリスマス
パーティ



●梨狩り



●梨
狩り



●恵方巻き



●もちつき



●七夕



●そうめん流し



●ハロウィン

私は表面化の見えていた行動のみ捉えがちでした。

水山モデルとは、障害がある人の課題となる行動を氷山の一角と捉え、氷山の一角に注目するのではなく、その水面下の要因に着目して支援の方法を考えることを意味します。

実践研修では、氷山モデルから有効な支援に繋げていくための研修・討議を行いました。特に、「障害特性を強みの表現に変換し、強みを活かした新たな環境を整えていく」ことについての講義はとても勉強になりました。

今回の研修で、どのような時でも見方は一つではなく、捉え方次第で良い方向に変え強みに変えていくことが出来る。そのことに気付けるようになるためには、日々の声かけや接し方を大切にしないといけないことを改めて学び感じました。研修に参加させて頂き本当にありがとうございました。

研修報告 鹿児島県強度行動 障害支援者養成研修 支援員 南野 孝一郎

令和二年十一月十八日（基礎研修）令和三年二月二十四日（実践研修）

鹿児島県強度行動障害支援者養成研修に参加させて頂きました。

研修の目的は、行動障害を有する方のうち生活環境への著しい不適応行動を頻繁に示す「強度行動

障害」を有する方が安定した日常生活を送ることができるよう、障害特性の理解に基づく適切な支援を行う支援者を養成することを目的とします。

基礎研修では、どうして強度行動障害になるのか、その要因を「氷山モデル」で考えていくことを学ぶ研修となりました。

氷山モデルとは、障害がある人の課題となる行動を氷山の一角と捉え、氷山の一角に注目するのではなく、その水面下の要因に着目して支援の方法を考えることを意味します。

私は表面化の見えていた行動のみ捉えがちでした。水面下の障害特性を理解すること、環境・状況が与える影響を考えて、行動の背景を捉えることが大事だと教えて頂きました。

実践研修では、氷山モデルから有効な支援に繋げていくための研修・討議を行いました。特に、「障害特性を強みの表現に変換し、強みを活かした新たな環境を整えていく」ことについての講義はとても勉強になりました。

垂水旅行に行つてきました、支援員 中村 由貴生

令和三年二月十八日～十九日、第一陣としてグループホームこうの皆様が垂水へ一泊温泉旅行に行つてきました♪

当日の朝、なんと吉野は雪が積もり、雪だるまを作つてからいざ出発！宿泊先是桜島シーフロントホテル。

なんときずなが全館貸し切り！桜島が一望できる展望風呂や美味しい夕食を堪能した後皆さんお楽しみの『きずな大宴会』。曲当てクイズで、利用者様や職員がアカペラで大熱唱♪

大いに盛り上りました。

二日目は、志布志にあるうなぎの駅で昼食を食べ、ダグリ岬

遊園地へ行つてきました。

天候も良く、ゴーカートや観覧車、モノレールなどたくさんの乗り物で、久々の行事という事もあり、皆さん本当に良い笑顔で楽しく過ごす事ができました。

県内もまだまだ楽しい所はいっぱい！ きずなはコロナにも負けず、次はどこへ行こうかな？・・・



▲貸しきりだぞ～！



▲散策中！



▲温泉気持ちよかったです～

えぐち浜旅行

支援員 鮫島 隆静



江口留学生記念館



BBQ おいしかった!!



公園でのんびり

令和三年、十月二十九日（金）～三十日（土）の一泊二日の日程で、えぐち家旅行に行つてまいりました。今年、垂水旅行に続いて二回目のきずな旅行。皆さま前日、前々日から楽しみにしている様子でした。

旅行一日目では、まぐろの館で昼食をとり、寺山いこいの広場にて、遊具で遊ばれたる、展望台から見えるきれいな景色を眺められたりしました。そして、えぐち家にチエックインをし、各自自由時間で過ごした後、バーベキュー、花火をおこないました。

バーベキューでは、水平線に少しずつ沈んでいく太陽を見ながら美味しく食べることができます。花火では、皆さま色々と花火をもつて楽しました。

旅行二日目では、蓬莱館に寄つて各自お買ひ物と、江口浜散策をしました。昼食では日置にあるレストラン野元で、ハンバーグを召し上がりました。野元を出たあとは、お茶の里で休憩をし、パチエというアイスクリーム店へ向かいました。口に含んだときの、適度な柔らかさと滑らかな触感がとても美味しかつたです。旅行二日間通して、皆さま満ち足りたご様子でした。現時点ではコロナも少しづつ収束しているように見えま

すが、油断をせずに基本的な手洗いうがい等をしっかりとおこないましょう。また、次回のきずな旅行を楽しみにしています。



未来からやってきました。

令和3年度 事業報告

1. 総 括

令和2年度は、新型コロナウイルスにかかる緊急事態宣言に始まり、世界的大流行（パンデミック）、ウイルス型の変異による市中感染の拡大、医療崩壊の危機的状況と、常に終わりの見えない緊張の中にありました。3密の回避、マスクの常時着用、外出・外食の自粛等を徹底し、ご利用者様やご家族、そして職員とその家族の命と安全を守ることを最優先してまいりました。

多くの制約のなかで、一般の方々と同様、あるいはそれ以上のストレスをご利用者様は感じられたことと思います。多くの行事が中止となり、日中活動も変わった部分もありましたが、その分日々の細やかな活動や生活のあり方が豊かになるよう職員一同配慮し、皆さまに不安を与えること無く楽しく過ごしていただく努力を重ねました。お陰様でご家族、職員を含め、きずな関係の皆さまはお元気に過ごされました。これも、ご家族や関係の皆さまの温かいご協力と密な連携あってこそと、心から感謝申し上げます。

「セカンドハウスきずな野」、及び「グループホームこう」は入居型施設であり、新型コロナウイルスだけでなく、感染症等には特に

細心の注意が必要な事業です。また通所型事業の「きずな学園」「ディセンターゆう」「きずな塾」、また「相談支援センターあこ」は、社会と常に接している分様々な危険性もはらんでいます。

「きずな学園」が開設より26年に、「セカンドハウスきずな野」は20年、「グループホームこう」は2年になりました。前身の無認可小規模作業所時代を併せますと、「きずな」には36年の歴史があります。3人の利用者と2人の職員から始まった「きずな」ですが、常に「今」「ここ」にある「命」と真摯に、必死に向き合い続けて現在に至りました。「マインドフルネス」「些事入魂」「気づき」、どれも支援者にとってとても大切な援助理念です。

令和2年度は、これまでにない世界的な災厄に見舞われましたが、「きずな」が「きずな」らしくあることが、結局はご利用者様、ご家族を守ることにつながるのではないかと信じております。改めて「生活」や「支援」を見直す契機と捉え、支えてくださる多くの方に感謝しながら、今後ますます「きずなイズム」を磨く努力を続けて参ります。

2. 異動（令和3年3月31日現在）

きずな学園 職員/新規採用 1名 職員/退職 4名

3. 利用者の状況 年齢別状況（令和3年3月31日現在）

き ず な 学 園	性別					計
	18歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳以上		
男性	0	0	8	4	12	
女性	0	0	1	2	3	
合計	0	0	9	6	15	

定員20名 平均39.4歳（男性37.7歳・女性40.6歳）

き ず な 学 園	性別					計
	18歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳以上		
男性	0	1	2	7	10	
女性	0	0	6	14	20	
合計	0	1	8	21	30	

定員30名 平均42.5歳（男性40.9歳 女性43.5歳）

ディ セン タ ー ゆ う	性別					計
	18歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳以上		
男性	0	1	0	4	5	
女性	0	1	2	7	10	
合計	0	2	2	11	15	

定員10名 平均46.0歳（男性49.2歳 女性42.8歳）

グ ル ー プ ホ ー ム こ う	性別					計
	18歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳以上		
男性	0	0	1	4	5	
女性	0	0	1	4	5	
合計	0	0	2	8	10	

定員10名 平均46.0歳（男性48.2歳 女性42.8歳）

相 談 支 援 セ ン タ ー あ こ	性別					計
	18歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳以上		
男性	0	0	0	0	0	
女性	0	1	0	1	2	
合計	0	1	0	1	2	

定員10名 平均34.0歳（女性34.0歳）

4. 日中活動報告

- ・極真空手 週1回、学園・きずな野・こう各施設毎に活動している。
- ・ハビリテーション（健康維持・増進活動）：PT（理学療法士）指導による運動、園庭や学園近辺での歩行運動、ボール遊び等リラクゼーション
- ・音楽療法：ミュージックセラピスト（音楽療法士）による活動、カラオケボックスでのカラオケ
- ・プロドราม奏者による「リズム・ハート」（月2回、打楽器を中心としたセラピー）ダンス専門講師による、リズム体操
- ・社会参加活動：ドライブ、配達、イベント参加、外食等
- ・芸術・文化活動：絵画療法、陶芸他
- ・仕事体験活動：さをり、手芸品製作、園芸、木工製作、紙すき、ウエス作業、タオル作業、その他

5. 年間行事報告

- 4月 第一期始業式 ・辞令交付 ・ナイフハートスポーツ大会 ◇施設親善球技大会
- 5月 ゴールデンウイークイベント ・監事監査
- 6月 理事会 ◇運動会 ◇大明丘市小交流会 ◇市職員親善球技大会 ◇評議員会・理事会
- 7月 耳鼻科検診 ◇お祇園さあ観覧 ◇福岡旅行
- 8月 ◇サンライフプール ◇納涼船 第一期終業式 ・第二期始業式 ◇夏季野外キャンプ
- 9月 ◇ふれあいスポーツ大会 ・健康診断 ◇山形屋作品展示 ・歯科検診
- 10月 ◇在宅スポーツ大会 ◇バイロットウォーク ◇インフルエンザ予防接種 ◇吉田葬祭芋掘り ◇ゾウさんののはな通り ◇グループホームこう実地指導
- 11月 ◇わくわく福祉フェスタ ・インフルエンザ予防接種 ◇県福祉大会
- 12月 ◇クリスマスパーティー ・きずなクリスマス会 ・第二期終業式
- 1月 第三期始業式
- 2月 垂水旅行（こう）
- 3月 理事会・健康診断 ◇垂水旅行（野） ・第三期終業式
◇は、新型コロナウイルスの影響により中止。
- *毎月実施 職員会議・運営会議・ケース会議・職員研修・体重・体脂肪・血圧測定・リズムハート・ファミリーマートバザー・スポーツクラブ・リズム体操
- *毎月実施 音楽・踊り（野）・レクリエーション・ハビリ・カラオケ・水泳（ふれあいセンター）・リラクゼーション等は、新型コロナウイルスの影響により中止。

6. 交 流

- 武岡台養護学校 ◇鹿児島高等特別支援学校 ◇大明ヶ丘小学校 ◇吉野中学校 ◇吉野東中学校 ◇吉野東小学校 ◇吉田南中学校
- 国際大学 ◇志学館大学 ◇純心女子大学 ◇純心女子短期大学 ◇バイロットクラブ ・清水地区民生委員 ◇中洲地区民生委員
- 吉野東地区民生委員 ・名山地区民生委員 ◇玉里地区民生委員 ◇山川町民生委員 ◇西本願寺上町地区婦人会等 の各種ボランティア団体
- 大勢の方々と実りの多い交流ができました。
- ◇は、新型コロナウイルスの影響により中止。

7. 計画相談支援・障害児相談支援事業

平成28年2月に開所した相談支援センターあこでは、相談者（児）が有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、心身の状況及び置かれている環境等に応じて、適切な福祉サービスが多様な事業者から総合的かつ効率的に提供されるよう、公正中立の立場から相談・計画作成事業に取組んでいます。

コロナワクチン職域接種について

理事長 十島 真理

令和元年の暮れから始まつたコロナの世界的拡大（パンデミック）は、終息の目途も着かないまま今日までに至つています。日々、三密（密閉、密接、密集）を避け、マスク、手指消毒、換気等の徹底を行なながらも、不安な日々を過ごしております。

令和三年二月頃から医療従事者等へのワクチン接種、高齢者施設等の優先接種等が始まるなか、障害者へのワクチン接種の対応は遅っていました。各家庭で病院や大規模接種会場へご本人を連れて接種することは、到底難しく、また施設としてもどうしていいか分からずおりました。



そこで、六月に当法人の協力医療機関である「かわもと記念クリニック」の川本研一郎医師にご相談したところ、当時「職域接種」を国が勧めました。

まだ新型コロナの終息は見通せませんが、できる限りの予防対策を行うことで、これからも元気に楽しい毎日を過ごしていきたいと思っています。皆さま、ありがとうございました。

始めた時期とも重なり、衆議院議員の宮路拓馬先生のお力添えをいただきました。

きながら、全国で初めての「社会福祉施設の連携による職域接種（1,000人）」を県に申請することができました。

「きずな」と「ゆうかり学園」「じょうぶ学園」の三法人を中心にして、「じょうぶ学園」の「文化芸術支援センターアムアの森」のホールを二ヶ月借り切り、第一回接種、四週間を経て第二回接種を各1,000人

ずつ、計2,000人の接種を行うことができました。
ご利用者様、ご家族、職員、職員家族、地域の方々、関係者等、皆さまの健康に寄与できたことを嬉しく思います。川本研一郎先生には、多くの看護師、薬剤師の方々を手配頂き、また二、〇〇〇回の接種をお一人で行って頂きました。接種する右手の指に巻かれたテープbingがその凄さを語らずとも物語っていました。本当にありがとうございました。

関係者全員のご協力のおかげで、スムーズに、一本のワクチンを無駄にすることなく二、〇〇〇回の接種が完了いたしましたこと、心より感謝申し上げます。また、令和四年三月七日と十四日に、希望者への第三回ワクチン追加接種も川本先生のご尽力により終わりました。

まだまだ新型コロナの終息は見通せませんが、できる限りの予防対策を行うことで、これからも元気に楽しい毎日を過ごしていきたいと思っています。皆さま、ありがとうございました。

△編集後記▽

「リモートワーク」や「ワーケーション」というのにほんのちょっぴり憧れます。私たちの仕事ではとても出来そうにありません。人と接する仕事というのがどれだけ楽しいか、今はそう発するだけでも、はばかられる時代になっています。
決してこの業界に入ってきて欲しいという、お誘いではありません（笑）（西郡）



きずなの皆様の作品紹介